

祝日には国旗を掲げよう



第192号 昭和42年8月20日 発行所 宮崎県東臼杵郡 東郷村役場

山陰百姓一揆について

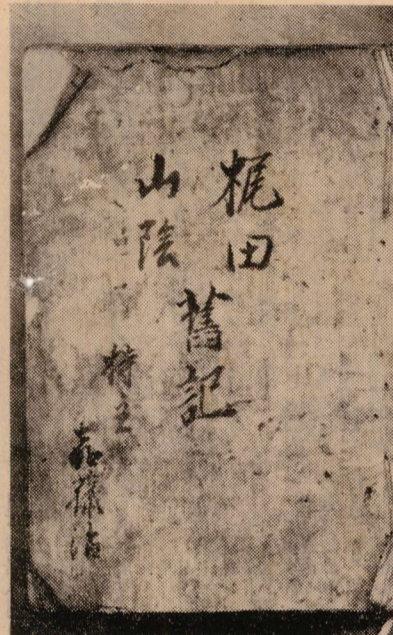
山陰百姓一揆は一揆史上重要なものである。われわれ本村民にとつては、われ等の遠い先輩が愛村の至情によりついに村造りの礎石となつたこの事実をはっきり知って、日々の業にはげむことは大事なことだと思われのでここに詳記する事にした。

山陰百姓一揆 元禄のころ本村は東(延岡藩)藩主は有馬永純で那代は梶田十郎左衛門、代官は大崎久左衛門であつた。

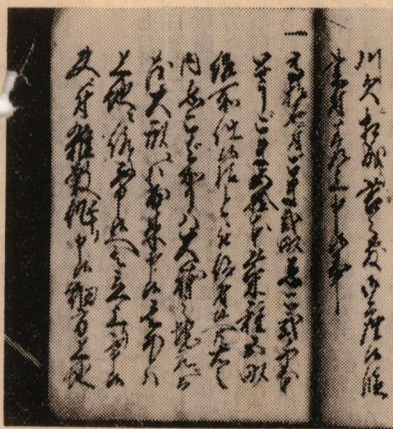
元禄二年、三年のころは天候不順、大雨洪水が三年間も続き諸川が氾濫して山陰二千石の美田が荒蕪地と交り果て、百姓の収穫皆無で疲弊困乏の極に達し悲惨な有様であつた。村人達はこの窮状を幾度も藩庁に訴願したが、那代はじめ代官の仕置は、無情冷酷であつた。前三年連続の凶荒に拘わらず前々通り貢租を取上げるために役人を上納権に駆り立て「定めの日限」に一日でも延引すれば科銀、様子によっては村替を仰つた。このため農民は上納銀調達のために他領から借金し、家財道具、衣類、小脇差など凡そ金目のものは全部入質して上租銀を促したけれどもに成り

に当てた。代官をはじめ地村廻り吟味役人は毎日朝早くから馬を駆りて百姓を田畑、山に追い出し激しい労働を強い、若し怠る者があつれば科銀を申付け、作物についで厚い、薄い、肥の仕様が悪いときびしく指図し、夜は晩くまで夜業をさせて休養の時間もなく牛馬の如く酷使した。食物は朝夕共に朽で汲む雑炊を食するようになつた。

かかる生活に堪えかね前途に希望を失つた村人達一千四百余人は元禄三年九月十九日、笠笠に身を固め、何程かの家財を携へ、それぞれ牛馬を引き或はこれに跨がって大卒薩摩藩島津氏の領内に移住の目的で出旅し、寺で全員落合つて高止した。途中秋月氏領の高鍋で抑留慰撫され直ちに県藩主に報せられた。県藩からは家老達を遣はして帰藩を促したけれどもに成り



山陰 梶田 舊記



成願寺に保存の山陰百姓一揆の記録(上、下)

この義民を追善供養して墓を成願寺に建てた。墓碕には次の法名が刻してある。

道室休意信士 夏雲浄円信士 心窓露田信士 明雲道昭信士 了山順覚信士 道寒青雲信士 法庵義山信士 林月露田信士 道室安信信士 常室利円信士 常本禪定門 清林禪定門 宗山禪定門 道林禪定門 貞田禪定門 本室禪定門 宗門禪定門 良雲禪定門 宗用禪定門 久安禪定門 裏面 文化八年未歳 大庄屋 寺原和右衛門 正月 日 追野内 二十二箇 寺 迫 二十六箇 川南(坂羽) 七十一箇 坪谷 四十四箇 八ツ山(越表) 七箇 福瀬 四十四箇 鶴野内 三十三箇 小野田 三十六箇 伊原(八重原) 十六箇 全箇數 二九九 人員 一、四二二人 文化八年大庄屋寺原和右衛門と成願寺八世実門叟は

重右衛門、半蔵の男兒(百姓に頼まれて願書を認めた者)は死罪。久五郎、又次郎、関之允、庄之允、角之允、与一兵衛、太郎助は流罪(八丈島)に処しその余は悉く放免とし、那代梶田十郎左衛門、代官大崎久左衛門は公儀より追放となつた。

その秋藩主有馬永純は在国の領内の騒動の罪に問われて城地召上げられ、翌元禄五年壬申春越後の国糸魚川に移封となつた。この一揆に参加した部落

追野内 二十二箇 寺 迫 二十六箇 川南(坂羽) 七十一箇 坪谷 四十四箇 八ツ山(越表) 七箇 福瀬 四十四箇 鶴野内 三十三箇 小野田 三十六箇 伊原(八重原) 十六箇 全箇數 二九九 人員 一、四二二人 文化八年大庄屋寺原和右衛門と成願寺八世実門叟は

元禄三年庚午九月十九日白杵郡山陰村ノ百姓男女千五百人、永純卿ヲ背キ秋月領内ニ出奔ス。此故、那代梶田十郎左衛門が非道ヲ怨ミ、薩州ヘ亡命ノ覚悟也。コレニ依テ秋月家ヨリカケ留置テ延岡ニ知ラセ玉フ。有馬ヨリ歴々ノ侍ヲ遣サレ度々招キ玉ヘ共、色々ノ望ノ事有テ帰ラズ、コレニ依リ野中ニ小屋ヲ営ミ秋月ヨリ扶持ヲ賜ハル。遂ニ二年ヲ経テ明春、江戸訴論ニ及

亡命ノ頭百姓二十人、并那代梶田十郎左衛門、代官大崎久左衛門、筆者伊東左衛門、村田長右衛門、目付野中、家老栗江連江評定所ニ於テ対決アリ。然ルニ百姓共其度ト成リ、延岡ニ於テ頭取善助、市兵衛、其ノ上男子ハ死罪、妻并女子ハ引上ゲ者ニセラル。半蔵、佐次兵衛、助助、重右衛門ハ死罪。半蔵男子ハ死罪、是ハ百姓ニ頼マレ願書ヲ認メタル者ナリ。久五郎、又次郎、関之允、庄之允、角之允、与一兵衛、太郎助、コレハ流罪ナリ。其ノ余ハ悉ク御赦免ナリ。那代代官ハ公儀ヨリ追放ナリ。

其秋將軍家ヨリ永純卿シカラザルノ上意ニテ城地召上ラレ、重テ無城ノ地ニテ本高五万石下サルベキノ由ニテ、逼塞ナリ。翌元禄五年壬申春越後糸魚川にて五万石を賜り移封なり。其の年より西、伐の年までに家中の輩引越しの光景見るに哀れを催せり。其の故は永純卿近年金銀不足の上越越知行の納まり延岡の半納もあるまじとて暇を賜るもの數百人、延岡に捨て置かれ諸人数半分余り越後に引越し也。

延岡より糸魚川まで海陸三百余里さし親愛の父子兄弟も別れては二度相見の思ひを絶ち、便りも稀なるべしと其悲しみ云はん方なし。先達で越後に往きし人々も嘆きはやまずと聞き

あとさきの涙くらべて見らば 糸魚川にはおとらじものを

元禄三庚午年九月十九日、山陰組百姓、高鍋御領内股野原エ立退申置、彼乃表テ百姓共差出候書付ノ写

山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。

山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。

山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。

山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。

山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。山陰組御米御立直ノ儀、納仕候。

山陰百姓一揆に関する記録

山陰百姓一揆に関する記録

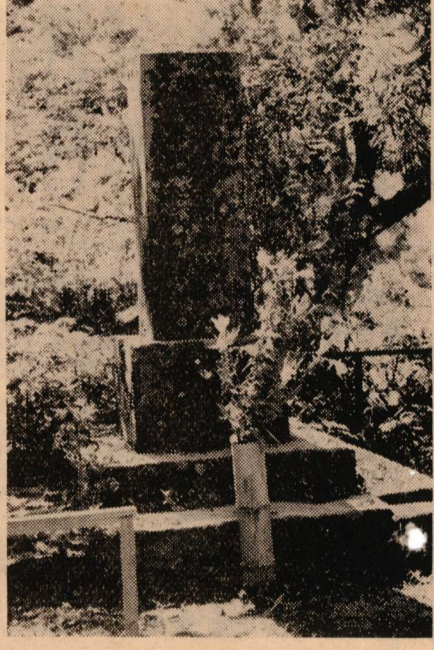
山陰百姓一揆に関する記録

山陰百姓一揆に関する記録

山陰百姓一揆に関する記録

山陰百姓一揆に関する記録

山陰百姓一揆に関する記録



成願寺の百姓一揆の供養塔

子どもを事故から守ろう

青少年を明るく育てよう

印紙税法が変わりました

印紙税法が全文改正され、昭和四十二年七月一日から実施されることになりました。改正前の印紙税法は明治三十二年に制定されたもので、条文が簡単なため、印紙税がかかるかどうか不明確でないという批判もありました。また、昭和二十九年以来すえおかれていた十円の定額税率および三千元の免税点は、その後の物価水準の上昇からも低すぎ、このさい全文改正をして、印紙税のかるる文書を法律上明確にするのと同時に最低税率を二十円に引き上げ、収入印紙のほり忘れ、消印もれなどには従来の罰金等にかわって過剰税が課せられることになったものであります。

最低税率は二十円に

印紙税法が全文改正され、昭和四十二年七月一日から実施されることになりました。改正前の印紙税法は明治三十二年に制定されたもので、条文が簡単なため、印紙税がかかるかどうか不明確でないという批判もありました。また、昭和二十九年以来すえおかれていた十円の定額税率および三千元の免税点は、その後の物価水準の上昇からも低すぎ、このさい全文改正をして、印紙税のかるる文書を法律上明確にするのと同時に最低税率を二十円に引き上げ、収入印紙のほり忘れ、消印もれなどには従来の罰金等にかわって過剰税が課せられることになったものであります。

退任の御挨拶

時下盛夏の候皆様方には、愈々御健勝にてお過ごしのことと拝察お慶び申し上げます。今後は一村民として村政の発展に微力を捧げる次第で御座います。何卒将来共変わりなく御指導御交誼を御願ひ申し上げますと共に、皆様方の御健康と御多幸を御祈り申し上げ、略儀乍ら紙上をもって退任の御挨拶といたしませう。

退任の御挨拶

時下盛夏の候皆様方には、愈々御健勝にてお過ごしのことと拝察お慶び申し上げます。今後は一村民として村政の発展に微力を捧げる次第で御座います。何卒将来共変わりなく御指導御交誼を御願ひ申し上げますと共に、皆様方の御健康と御多幸を御祈り申し上げ、略儀乍ら紙上をもって退任の御挨拶といたしませう。

栄える畜産・たゆまぬ衛生

第2回畜産衛生週間 8月21日から27日まで 農家の皆さん毎日大変暑い中をこころう様です。この暑い中で私も人間も大変ですが、畜産は逃げ場もなく、畜舎の中に集団でとこめられているのです。だから家畜の身になって住みよい環境をつくってやるように致しまして、その愛情はきつと利益という配当で報いられます。 ◎酪農家や肉用牛飼養農家の皆さんへ

村政懇談会報告

七月三十一日から八月十二日まで村内十二地区で村政懇談会を開催して村民の方々が日頃要望されている事柄、或は不満を抱いている事柄、或は意見を述べたい事柄を聞いて今後の村政を押し進めるための重要な参考資料にしたい。 ◎養豚家の皆さんへ

台風にそなえて

ことしも台風シーズンがやって来ました。気象庁の長期予報も五、六個の台風が日本へ影響をあたえるだろうと報じています。警視庁では台風による被害を軽減するための注意を呼びかけています。 ◎台風が近づいたときの準備

目下酷暑八月うだるような今日この頃

退任の御挨拶

目下酷暑八月うだるような今日この頃、御健康を祈念致しまして御挨拶に代えさせていただきます。 藤崎 今朝男

栄える畜産・たゆまぬ衛生

第2回畜産衛生週間 8月21日から27日まで 農家の皆さん毎日大変暑い中をこころう様です。この暑い中で私も人間も大変ですが、畜産は逃げ場もなく、畜舎の中に集団でとこめられているのです。だから家畜の身になって住みよい環境をつくってやるように致しまして、その愛情はきつと利益という配当で報いられます。 ◎酪農家や肉用牛飼養農家の皆さんへ

村政懇談会報告

七月三十一日から八月十二日まで村内十二地区で村政懇談会を開催して村民の方々が日頃要望されている事柄、或は不満を抱いている事柄、或は意見を述べたい事柄を聞いて今後の村政を押し進めるための重要な参考資料にしたい。 ◎養豚家の皆さんへ

台風にそなえて

ことしも台風シーズンがやって来ました。気象庁の長期予報も五、六個の台風が日本へ影響をあたえるだろうと報じています。警視庁では台風による被害を軽減するための注意を呼びかけています。 ◎台風が近づいたときの準備

結婚

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原

出生

赤ちゃん 父の名 部落 稲田久美代 茂 八重原 酒井美津子 尚 八重原 寺原耕一 求 坪谷 工藤正一 千代 土下渡川 河野タミ子 宝 寺迫 稲田千鶴 豊 田野 下田智子 豊 田野 小野幸活 三千 樹田 直野祐加子 幸 一 福 若藤美紀 健 羽 永岡和典 明 小野 岡野隆志 重 惟 田中 功 寿 小野田

逝去

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原

戸籍たより

七月 届出分

村政懇談会報告

本県民一人当りの所得は一四八、〇〇〇円である。これは全国平均の二〇五、〇〇〇円に比すれば約七〇％に過ぎない。本村は九六、〇〇〇円であるから、県の七〇％にも達しない現状にあるので、全国に比すれば五〇％にもならない貧弱さである。 ◎養豚家の皆さんへ

台風にそなえて

ことしも台風シーズンがやって来ました。気象庁の長期予報も五、六個の台風が日本へ影響をあたえるだろうと報じています。警視庁では台風による被害を軽減するための注意を呼びかけています。 ◎台風が近づいたときの準備

結婚

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原

出生

赤ちゃん 父の名 部落 稲田久美代 茂 八重原 酒井美津子 尚 八重原 寺原耕一 求 坪谷 工藤正一 千代 土下渡川 河野タミ子 宝 寺迫 稲田千鶴 豊 田野 下田智子 豊 田野 小野幸活 三千 樹田 直野祐加子 幸 一 福 若藤美紀 健 羽 永岡和典 明 小野 岡野隆志 重 惟 田中 功 寿 小野田

逝去

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原

結婚

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原

出生

赤ちゃん 父の名 部落 稲田久美代 茂 八重原 酒井美津子 尚 八重原 寺原耕一 求 坪谷 工藤正一 千代 土下渡川 河野タミ子 宝 寺迫 稲田千鶴 豊 田野 下田智子 豊 田野 小野幸活 三千 樹田 直野祐加子 幸 一 福 若藤美紀 健 羽 永岡和典 明 小野 岡野隆志 重 惟 田中 功 寿 小野田

逝去

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原



村政懇談会寸景

多い米作をはじめ畜産、特用作物等重要な作物がある。この等々の振興にも一段と力を注ぎ農家の収入の増大を計らなければならぬ。 ◎養豚家の皆さんへ

台風にそなえて

ことしも台風シーズンがやって来ました。気象庁の長期予報も五、六個の台風が日本へ影響をあたえるだろうと報じています。警視庁では台風による被害を軽減するための注意を呼びかけています。 ◎台風が近づいたときの準備

結婚

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原

出生

赤ちゃん 父の名 部落 稲田久美代 茂 八重原 酒井美津子 尚 八重原 寺原耕一 求 坪谷 工藤正一 千代 土下渡川 河野タミ子 宝 寺迫 稲田千鶴 豊 田野 下田智子 豊 田野 小野幸活 三千 樹田 直野祐加子 幸 一 福 若藤美紀 健 羽 永岡和典 明 小野 岡野隆志 重 惟 田中 功 寿 小野田

逝去

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原

結婚

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原

出生

赤ちゃん 父の名 部落 稲田久美代 茂 八重原 酒井美津子 尚 八重原 寺原耕一 求 坪谷 工藤正一 千代 土下渡川 河野タミ子 宝 寺迫 稲田千鶴 豊 田野 下田智子 豊 田野 小野幸活 三千 樹田 直野祐加子 幸 一 福 若藤美紀 健 羽 永岡和典 明 小野 岡野隆志 重 惟 田中 功 寿 小野田

逝去

氏名 年令 部落 那須イトエ 五〇 坪谷 奈須アキ 七九 八重原 矢野新太郎 八八 八重原 矢野幸洋 六八 坪谷 糸平誠一 六八 八重原 新保時太郎 七九 八重原 三原博 二七 八重原 稲田伊助 八六 八重原 佐藤イロ 八二 八重原 寺原島吉 八〇 八重原 安藤貞喜 三三 三寺 平瀬ユキエ 六八 八重原 黒木伊助 八〇 八重原